

山形メディアタワー



北側メイン入り口のキャノピーとカーテンウォール

竣工に寄せて

建築家

本間 利雄



自分たちの住まう街に織り込まれた文化や歴史、そしてここに形成された固有の街並み。地方の建築家として、そういうものをいかに未来へとつなぐべきかと、日々思っている。

県都・山形市は、最上義光を中興の祖とする城下町だ。別名「丸の東側の羽州街道沿い」などに「市目」のつく商人町がつく

環境・文化・歴史の交差の

られ、さらにその左配置するなど、努めたという。


旅籠町もその一秋元氏の時代(文宿場となり、飯盛して、旅籠屋が軒にぎわったといわれ、三山行旅さまざまな人たちがたつことは容易にその後、明治に入して赴任した三郎裁判所、学校、山を建設させ、山形礎となる街並みを明治11年には英園ペラ・パートが山築を見て称賛した「奥地紀行」に記された。

言い換えれば、商業、文化の中心報の行きかうメディアだった。

そのような街の社山形新聞社・山社の新社屋「山形ー」がこのほど建築物が面する沿や六十里越街道と形市中心部の重要あるほどに、機軸が誕生していた。

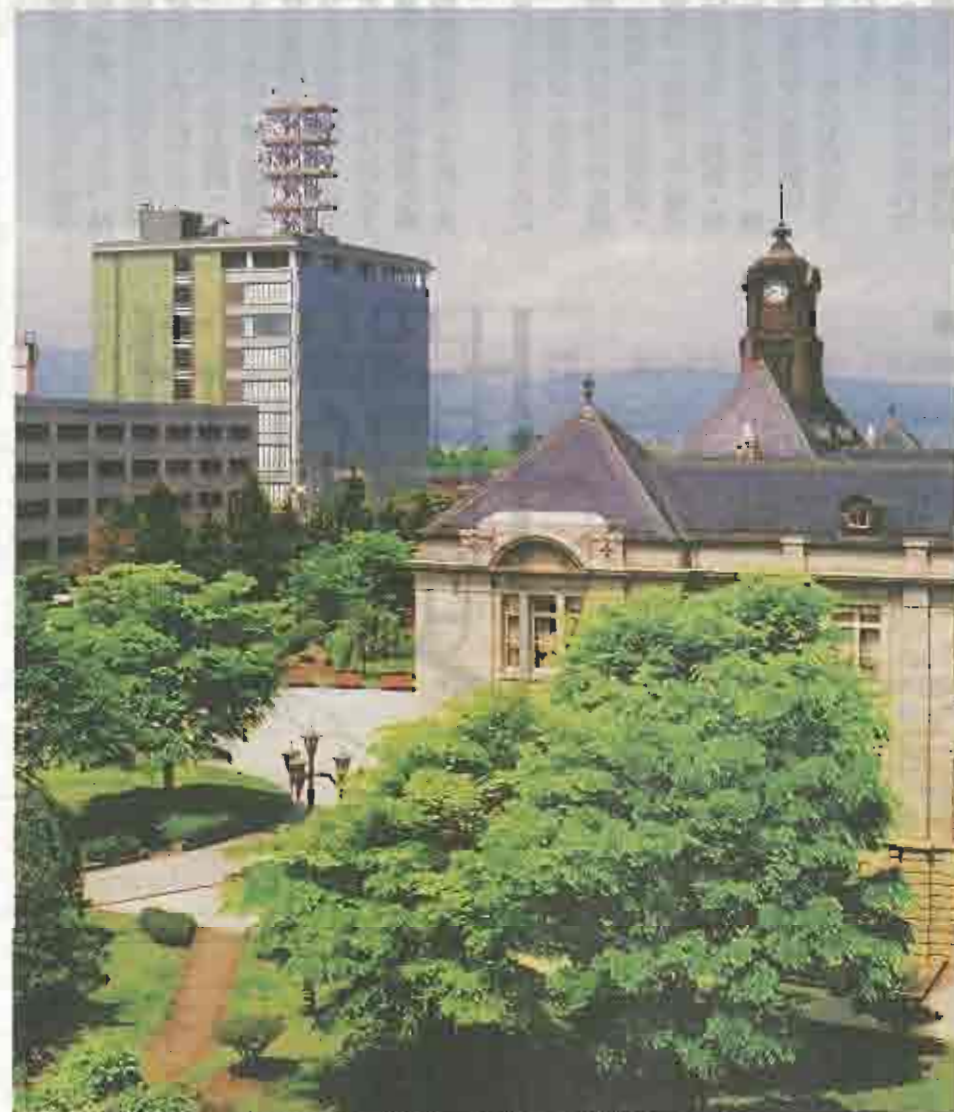
平成14年度より開城改良事業が進み対応しての建て替計画に当たったのは山形らしかった。

山形の新しい顔ある。そのために、かれ、景観を取りすべきと考えた。北東の文翔館を始めとする市街

設計・監理 =  本間利雄設計事務所
+ 地域環境計画研究室 日建設計

美しい自然や地域性ある風合いの中に今日性を表現

美しい自然や地域性ある風合いの中に今日性を表現



文翔館(旧山形県庁舎)・県政史跡地ごしに見る

られ、さらにその周辺に職人町を配置するなど、城下の繁栄に努めたという。

旅館町もその一つに当たる。秋元氏の時代(文政年間)には宿場となり、飯盛女を置くなどして、旅館が軒を連ね、随分賑わったといわれる。武士に限らず、三山行者や商人など、さまざまな人たちがそこに泊まったことは容易に想像できる。

その後、明治に入ると、県令として赴任した三島通庸が県庁や裁判所、学校、山形町役場などを建設させ、山形の近代化の基礎となる街並みを現出させた。明治11年には英国人旅行家イザベラ・バートが山形の西欧式建築を見て称賛した様子が「日本奥地紀行」に記されている。

言い換えれば、旅館町は行政、商業、文化の中心地であり、情報が行きかうメディアそのものだった。

そのような街の一面に株式会社山形新聞社・山形放送株式会社の新社屋「山形メディアタワー」がこのほど完成した。

建物が面する道路は羽州街道や六十里越街道とも称される山形市中心部の重要な幹線道路であるほどに、慢性的な交通渋滞が発生していた。そのことから平成14年度より国道112号環状改良事業が進められ、それに対応して建て替えた。

計画に当たって、最も重視したのは「山形らしい施設づくり」だった。

山形の新しい情報発信基地である。そのためには、地域に開かれ、景観を取り込んだ施設にすべきと考えた。

北東の文翔館(旧山形県庁舎)を始めとする市街地の眺め、さ

地域に開かれ、景観を取り込んだ施設

らに遠く月山・栗山や笹谷・雁戸、威王の山々、これらを一望できるよつに大きく窓を開き、光と影を映すカーテンウォールやルーバーを外観のデザインとし、陽光にきらめく大判の淡い緑色のタイルを組み合わせ、美しい山形の自然や地域性ある風合いのなかに今日性を表現している。

1階エントランスロビーは、情報プラザやオープン生スタジオなどを設け、地域の人々に広く開放されたスペースである。そのために山形を代表する文化遺産でもある蔵のデザインを生かし、山形の左官職人の技術による漆喰仕上げとした。またタイル床のデザインには、蔵城にち

なんだ蔵をデザインのモチーフにし、それを前庭の舗装のデザインにまで展開したが、黒部・山形の歴史と場所の文脈を新たに紡ぐものになることを期待していることである。

国道112号環状改良事業がこれまで親しんだ街並み景観を喪失させていることも事実である。周辺にある蔵や町屋風の店舗、また昭和初期のファサードデザインの店舗なども姿を変えつつある。しかし慎まじやかにでも山形の歴史と文化の文脈が新たに紡ぐられる街並みのそこに息づいてほしいものである。

(本間利雄設計事務所
+ 地域環境計画研究室主宰)



1階エントランスロビー。右にラジオスタジオ。窓の外のイメージを流用したもの。窓の外、回廊ごしに県政史跡地等の緑を見る。緑の中に文翔館の時計塔も見える。

機械設備工事

黒澤建設工業・菱建工業共同企業体

心地よい環境を創ります。

ISO 9001:2000
ISO 14001(本社事務所)
認証取得

空気と水で社会に奉仕する
総合設備工事設計施工

黒澤建設工業株式会社 **菱建工業株式会社**

代表取締役 黒澤 洋

代表取締役社長 遠山 善則

本社 山形市花桶2-9-21 電話(023)623-4222(代)

山形市本町二丁目1-23 電話(023)631-8923

電気設備工事

ユアテック・東光電気・東北電化共同企業体

Yurtec 株式会社 ユアテック

執行役員 荒川 満政 山形営業所長 小玉 富雄
山形支社長

山形支社 山形市大野目3-5-7 電話(023)632-3131
営業所 山形・寒河江・天童・新庄・米沢・長井・酒田・鶴岡 <http://www.yurtec.co.jp/>

東光電気工事株式会社 東北支社

執行役員 佐々木 博 山形営業所長 岡崎 孝男
支社長

東北支社 〒980-0011 仙台市青葉区上杉6-2-23 電話(022)234-2121(代表)
山形営業所 〒990-0031 山形市十日町1-3-29 山形種銀日生ビル5階 電話(023)623-2795(代表)
<http://www.tokodenko.co.jp/>

東北電化工業株式会社

代表取締役社長 會津 圭一郎

本社 山形市青田三丁目9-18 電話(023)623-0611
<http://www.tohoku-denka.co.jp>

歴史と文脈を紡ぐ



1階ロビー コーヒーラウンジより情報コーナー越しに風除室方向を見返す

施工のポイント

綿密な事前検討を実施

現地改築のため、既存 特に、1期施設と既存本となる鉄骨とコンクリーの建物(本館・新館)を館に採られた形での既存新ト、また面積の広いカーに敷地を求めて第1期分 2期施設との接続工事などともに、外壁の陶板タイを建設。既存新館を解体では、ラジオ・テレビの放ルについては下地金物のし、その跡地に第2期分 送に対する騒音や振動、ほ 取り付け方法や作業手順もを建設した。その後、既こりなどの影響を最小限に 含めて設計監理者と施工者存本館も解体し、道路拡幅 抑えるために細心の注意が 綿密な事前検討を実施にあわせて外構・前庭な 求められた。品質面では、建物の根幹ている。



北西面外観

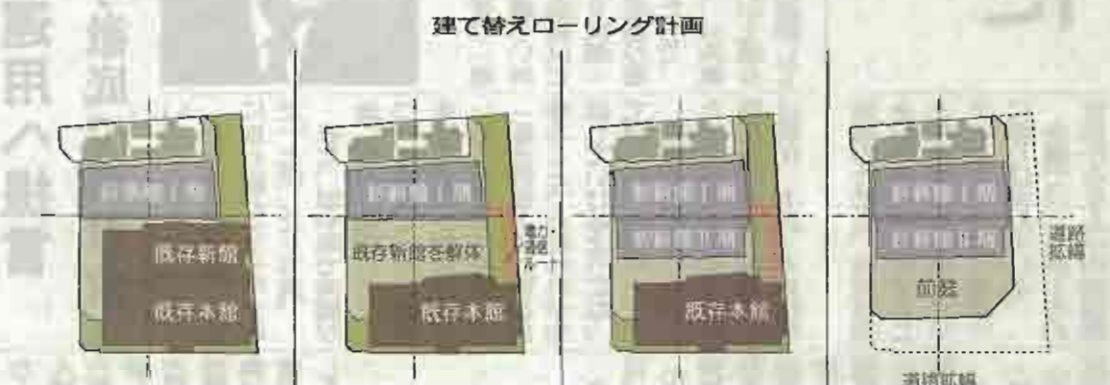
先進の機能もつ情報発信基地

かつて城下町の宿場としてにぎわい、明治期には近代化の基礎となる街並みを現出させた県都・山形市の中心部、旅館町に、先進の機能を満載した情報発信基地が誕生した。山形新聞社と山形放送の新社屋となる『山形メディアタワー』である。きょう25日に完成披露パーティーが開かれる。設計は、地域に根ざし、そこに織り込まれた文化や歴史、その風土性を読みとるデザインをポリシーとしている本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室と、放送・メディア施設の豊富な設計実績を持つ日建設計の設計共同体。遠く月山・葉山や笹谷・雁戸、蔵王の山々、また文翔館(旧山形県庁舎)を始めとする周辺の市

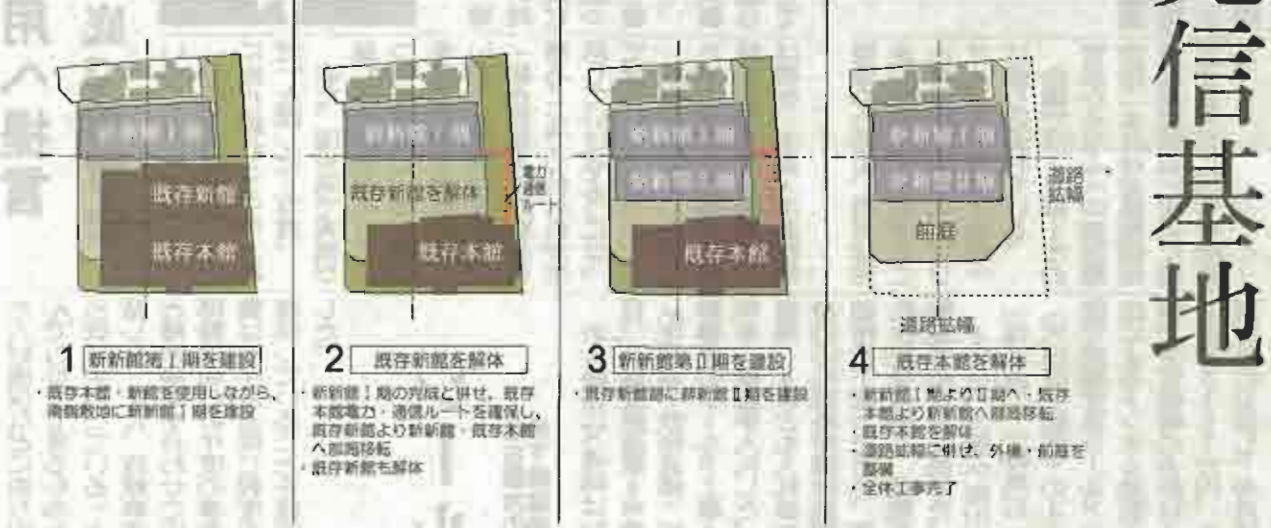
街地に大きく開かれた透明感あるガラスカーテンウォールと、大判の淡い緑色のタイルを組み合わせた外観は、山形の美しい風土に融け込みながら今日性を表出。地域に開放される1階のロビー空間や前庭のデザインとあわせ、県都・山形の歴史と場所の文脈を新たに紡ぐランドマークとなる。施工は安藤建設・山形建設共同企業体。中心市街地において、既存建物を使いながら新築工事と解体工事を交互に繰り返すという厳しい制約条件を卓越した技術力と、綿密なコミュニケーション、事前の徹底した打ち合わせによって克服し、高精度、高品質の施設を完成させた。



北側正面全景



- 設計の根ざしとして先
- ①メディアのメデ
- ・先進
- ・開ル
- ・フレ
- ・ロア
- ②周辺
- ・文翔
- ・周辺
- ・平面
- ・山形
- ・生か
- ③安全
- ・24
- ・対
- ・二重
- ・ツプ
- ・震災
- ・信の
- ・免
- ・セキ
- ・確化
- ④将来
- ・計
- ・省エ
- ・テナ
- ・機
- ・施設
- ・エコ



北側正面全景

信基地

- 設計の基本方針「地域に根ざした情報発信基地として先進的な新聞・放送のメディア建築を目指す」
- ①メディアミックスのメリットを生かす
- 先進的な地域のシンボル性
- 開かれた施設づくり
- フレキシブルなワンフロア化で使いやすく
- 周辺環境に調和した建物
- 文翔館などの周辺環境に整合
- 周辺の景観を取り込む平面プラン
- 山形の地域性と方位を生かした外装デザイン
- ③安全性・信頼性の高い施設
- 24時間ノンダウン化に対応
- 二重・三重のバックアップによる電源供給等
- 震災時における情報発信のために、耐震構造
- 免震フロアの採用
- セキュリティ区分の明確化
- ④将来対応に配慮したやさしい計画
- 省エネルギー、ランニングコスト低減、メンテナンス性
- 機器の更新を考慮した施設
- エコマテリアル、リサイクル材の採用

山形メディアタワー/建築データ

■工事名 新・山形放送会館建設工事 建築主 株式会社山形新報社 主な用途 事務所 所在地 山形市旅籠町二丁目5-12 ■設計・監理 本間・日建設計共同企業体 設計期間 2002年3月14日～03年4月14日 ■施工 建設工事 安藤建設・山形建設共同企業体 電気設備専門施工 エアテック・東光電気・東北電化共同企業体 機械設備専門施工 黒澤建設・菱建工業共同企業体 外構工事 成谷建設株式会社 工事期間 全体工期 2003年4月17日～07年4月1日(約4年間)	■構造・規模 建築最高高さ 鉄塔最高高さ ■面積 敷地面積 建築面積 延べ床面積 ■主な外部仕上げ 屋上 アスファルト断熱防水押入 コンクリート仕上げ	1期工事 03年4月17日～04年10月1日 解体工事他 04年10月2日～05年6月26日 2期工事 05年6月27日～06年7月1日 解体工事他 06年7月2日～07年2月28日 外構工事 07年3月1日～07年4月1日 鉄骨造地下2階地上9階建て塔屋1層	外壁 押出成型セメント板の上、大判タイル金物取付 外部建具 アルミカーテンウォールフッ素焼付 軒天 アルミパネル厚3mmフッ素焼付 ■主な内部仕上げ ロビー 床/磁器質200角タイル貼腹/御影石貼 壁/漆喰塗天井/アルミパネルおよび光幕天井システム TVスタジオ 床/湿式浮床の上、ビニルタイル貼 壁/固定遮音壁+浮遮音壁の上、ホリゾント壁 天井/吸音天井の上、グリッドパイプ吊 執務室 床/OAフロアの上、タイルカーペット敷 壁/石膏ボード二重貼 EP塗装天井/岩綿吸音板システム夫	■主要設備 電気設備 受変電設備 6.6KV 50Hz 2回線、発電機 他 発電機設備 ガスタービンエンジン 750KVA その他 空調調和設備 熱源方式 冷温水発生機および空冷式冷房機+水蓄熱システム 空調方式 4管式および2管式空調機、高性能自動制御システム 衛生設備 給水設備 市水・井水の2系統給水 排水設備 屋内合流方式 消火設備 屋内消火栓、連続放水、連結送水設備および酸素ガス、新ガス消火設備 昇降機設備 15人乗り乗用EV2台(1台は身障者対応) ロープ式17人乗り非常用EV2台
--	--	---	---	--



北側前庭に置かれた土谷武氏の作品「向い風II」(1981)。「この作品は、朝露(とんぼ)が向い風のなかを、その風の力に負けないはばたき、時に静止し、時に素早く位置を変えて自在に飛翔する姿を現している」

安藤建設・山形建設共同企業体

空間に新しいエナジー

安藤建設株式会社



地域社会の発展に貢献する

山形建設

取締役社長 山田恒太郎
 執行役員 竹井伸行
 東北支店長

本社/東京都港区芝浦3-12-8 電話(03)3457-0111
 東北支店/仙台市青葉区木町通1-6-34 電話(022)264-1711
 山形営業所/山形市本町2-4-62 電話(023)622-7871

本社/山形市清住町一丁目2番18号 ☎(023)644-5208(代)
 事業所/天童 営業所/天童・鶴岡・寒河江・庄内・西置賜
 URL <http://www.yamagatakensetsu.co.jp>